

文化の仲間

京浜協同劇団と共に歩む文化の仲間 会報 No.84 2018年11月3日発行
川崎市幸区古市場 2-109 京浜協同劇団内 TEL 044-511-4951 郵便振替 00250-3-18369
ホームページ：<http://www.keihinkyoudougekidan.com/bunkano-nakama/>

京浜協同劇団 第92回公演 創立60周年記念・第1弾

おりん、いよいよ本番秒読み！

稽古の種から花が咲く

京浜協同劇団 制作部 岡野 三郎

本番まで秒読みです。今回は稽古場の空気を写真でお伝えします。



梅沢さんを迎えた学習会

「おりん」準備はお馴染みのくるみざわ梅沢健さん(写真中央左)との作品学習会から始まりました。それは2018年3月31日のこと。当時は上演台本は未完成で、深沢七郎の「榎山節考」を現代社会を生きるにあたってどのように考えればよいのか、模索の始まりでした。梅沢さんの示唆に富む分析に文化の仲間共々大きく頷きました。



広山さんと大井さん



三戸さん

それから早半年が過ぎた10月中旬。衣装パレードも済ませ、芝居作りも具体的になってきました。この日は榎山節の盆踊りの初稽古。師匠は元こぶし座さんの三戸真澄さん(上)。三味線で世相を風刺する新都市逸は逸品。チャーミングで、ユーモア溢れる指導に笑いが絶えません。全員即座にリラックス。

客演の広山鈴子ほさんも大井かおるさん(下左)も筋の良いところを褒められにっこり。男衆は手と足がぎくしゃくしてままたまならず、舞台上げてもらったのは女優陣のたまだけ(下右)。若い衆にゃ負けられないと宣うベテラン女優陣もなかなかのもの。♪サアテ腰伸ばし





て顔上げて。
そんな様子を見て微笑んでいるのは、音楽ご担当の我らが安達元彦さん（左）。音程もリズムもつかめない役者に根気強く、作曲下さった曲の

創立メンバー細田寿郎の追悼公演でもあります。60年を迎える劇団が久々に最長老を主役に立て、観客と共に生きていく元気を取り戻す舞台を作り上げます。とんちゃん、全力傾注中。チケット残り僅かです（と言いたいところ）。



歌唱指導。

劇中の篠笛は玉田耕太郎さん（右上）にお願いしました（録音）。川崎太鼓仲間「響」を父親と共に牽引。文化の仲間の高橋明義さんも共に活動しています。澄んだ笛の音に観客は魅了されることでしょう。昨年結婚しました。

そして、忘れちゃならないもう一人がおりん婆やん（右下）。そう、若菜とき子 84 歳。6 月に他界した夫、



お願い。

京浜協同劇団（刊行する会代表） 和田 庸子

この本は、読まないでください。万が一にも、全 600 ページの読破などは絶対にしないで下さい。大変なコトになるからです。自分の価値観や人生観を根本から疑いはじめてしまうかも知れない……。いや、人生をやり直そうと思ってしまうかも知れない。そんなことをしてはいけない！これまでの路線を素直に最後まで歩いていった方が平和です、幸せです、フツウは。

特に、

- ◎何某かのコンクール高位入賞をめざしてガンバっている人
- ◎「肩書き・経歴・資格」に絶大な安心感を抱く人
- ◎自分の特技・技術を「プロ、もしくはプロ並み」と自負している人
- ◎職業上の必要性があるわけでもないのに、人から「先生」と呼ばれている人は読まないでください。大変危険です。立ち位置がグラグラ揺れ出すかもしれません。

本を編集した一員としてのホントの気持ちです。

でも、どうしても、読みたくなってしまったら……。仕方ありません、お読み下さい。そしてご自分の心と身体に起こったことを、編集部までお知らせください。処方箋はお出しできませんが、次の「安達本」を作るための貴重な資料とさせていただきます。



発売日 11月15日（予定）四六判・全 600 ページ

定価 3700 円（税抜き）

予約していらっしゃる方、刊行する会に本をお申込み下さる方には 2500 円で販売いたします（郵送料は別途）。

また、「おりん」会場でも 2500 円で特別販売いたします。

問合せ・申込み 刊行する会代表 和田庸子

〒 212-0052 川崎市幸区古市場 2-109-201

電話：080-1084-9612 メール：gojuhajime0691@msn.com

花火納涼会に参加して

20名くらいの参加で大賑わい

京浜協同劇団 稲垣 美恵子

終戦記念日の8月15日、お隣の大田区主催の花火大会に便乗し、劇団屋上で開催されるのが、文化の仲間の納涼会兼花火大会である。

それから1カ月近くになって二村さんから原稿の依頼があった。開催前に頼まれていれば構えも異なつたろうに……と思いつつ受けてしまった。

さて、今年の花火大会はどんなだったかしら？

公演のたびにご家族連れで観劇に来られて、感想を述べてくださる島田さんが初参加でお1人で見えられた。思わず席を移しておしゃべりをする。また、西



海亭のゆかちゃんの連れ合いの日本語ペラペラのベルギー人と、場は20名くらいの参加で大賑わい。

文化の仲間は朝から準備してくださった。焼き鳥、トウモロコシ、トコロテンなど味わいながら、ビールを呑み、おしゃべりに花が咲いたところへ、一発目、ドーンと多摩川の上空に花火が上がった。赤・青・黄・緑と美しい！

昔、花火好きの友と海辺で観た花火を思い出した。花火の美しさよりあのドーンとなる音が、田舎育ちで



空襲に遭ったことはないが焼夷弾が炸裂したときあんな音を出したのだろうと思われ、耳から離れなかった。だから、私には花火は遠くで観るほうが合っている。

花火が終わって、片付けに入るのだが、残った人たちで二次会を1階の稽古場でやる。ここでは文化の花が咲く。しゃべりたい人がしゃべる。酔っているのいろいろだ。



朝10時に元町のポンパドールにこの日使うフランスパンを買いに行った橋本さん。フランスパンを窯から出してみたら十分に焼けていない。焼けるまで待たされた。十分に焼けたパンのお代を払い、あと、十分に焼けていないものはおまけでもらってきたという、粋な職人氣質の話で盛り上がった。



劇団員による劇団員紹介 第4回——鬼丸ゆりさんによる藤井康雄さん紹介

役（やく）創造（つくる）役者（やくしゃ）

京浜協同劇団 鬼丸 ゆり



昭和18年3月11日、藤井さんは東京都北区で生まれました。それから両親の実家のある岩手に疎開。15歳の春に岩手を離れ、集団就職で京浜工業地帯へ。川崎の日本鋼管に就職しました。

そこで仕事に励みながら、いろいろな学習会やサークルに参加し、演劇にも関心を持つようになりました。そして、1962年に劇団に入団し、第5回公演『歌え！

わかもの』（作・黒澤参吉／演出・田中万代）に出演しました。役者・藤井康雄の誕生です！

今年、京浜協同劇団は創立60周年記念公演に取り組んでいます。

昔10代の少年だった藤井さんは、今も頑張っています。しかし、劇団はこれまで何度も危機的状況に陥りました。でも藤井さんは「もう辞めた！」等と弱音も吐かず、逃げ出しもせず、ずーと劇団を支え続けてきました。スゴイことです。

昔の話ですが、室ちゃん（故人）は「藤井さんは文鎮（ブンチン）！危なくなると抑えてくれる。止めてくれる。藤井さんは文鎮！」と言っていました。これも昔の話ですが、堤次郎さん（故人）は、酔うと、「あいつ（藤井）の弔辞は俺が書く！」と言っていました。

いつもお世話になってきた藤井さんへの感謝の気持ち。弔辞に込めたいと思っていたようですが……彼のほうが先に逝ってしまいました。

藤井さんは一般社団法人京浜協同劇団の理事長・劇団代表にとどまらず、数々の要職にも就いています。演劇人としては役者であり演出者であり、組織者責任

者でありと多岐にわたっています。

でもその中、藤井さんが一番好きなものは、「役者！」だと思います。

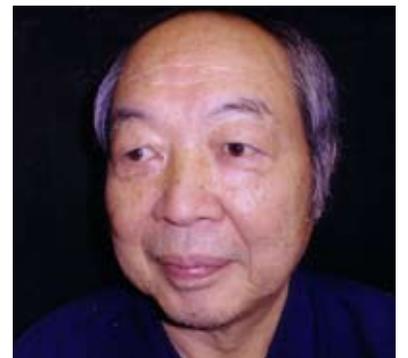
「好きこそ物の上手（じょうず）なれ」という言葉がありますが、藤井さんの芝居を観ていると、そう思います。お芝居は最高のエンターテインメントと言われます。

でも何のために？ 誰のために演じるのか？ 役者は自問自答しながら、また他者と交流しながら舞台を創り上げていく。演技者は「役（やく）を創造（つくる）役者（やくしゃ）」になってほしいなあ！

藤井さんは、幸か不幸か？ 思いがけず、主役の役者が途中降板するという事態となり、ピンチヒッターとして出演した「ぼっぼや（鉄道員）」や「コーカサスの白墨の輪」のアツダク役は大好評！ 私も感動しました。とても良かったよ！

役（やく）を創造（つくる）役者（やくしゃ）に、心から拍手を送りたいと思います。

残念ながら、劇団活動も地域活動も、“老体に鞭打つ状態”が続きそうですが……。これからもよろしく願いいたします。



第21回定期総会の延期について

文化の仲間・事務局 山木 健介

9月30日（日）に開催予定だった第21回定期総会は、台風接近の影響で、開催を中止（延期）しました。

記念講演を予定していた舞台美術の小池れいさんと、京浜協同劇団の劇団員の皆様、出席を予定されていた文化の仲間の会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。

世話人会で、再度開催時期を決定し、会員の皆様には改めて開催通知をお送りします。記念講演は引き続き小池れいさんをお願いするつもりです。

連載 「京浜協同劇団」と私——第6回

民謡を歌うロシア人たちの雰囲気と全く同じではないか

岡田 京子

私が原太郎師匠に連れられて、初めての東北に出発したのは、1954年2月でした。秋田県仙北郡神代（じんだい）村、という所に「わらび座」はあったのです。上野を発って車中で1泊、大曲で生保内線に乗り換えて、たっぷり20時間ぐらいかかって着くのです。2月の夕方の神代は雪が降り続いていて、あたりは暗いけれど、真っ白に見える田んぼの真ん中の道を、迎えて来られた座長の横山さんの後について10分ほど歩いたところに、材木倉庫を改造してもらったと言う「わらび座」の根拠地がありました。

当時「わらび座」は7人ほどでしたが、その日在宅していたのは2人で、近所の農家の人たちが何人か、夫婦で遊びに来られていました。奥さん達は台所に、男達はゴンゴン燃えているストーブを囲んで酒盛りの最中でした。

音を立てて燃えるストーブに、顔や手はすぐカッカと熱くなるのですが、背中がひんやりして、氷点下に近いのではなかったらどうかと今も思います。

原師匠もくつろいで、酒盛りに参加されているうちに、なんと、ごく自然に手拍子が始まり、歌になっていきました。初めて聞く歌です。長いメリスマ（音の上がり下がり）を持つ歌で、どんな意味なのか少しも

わからなかったのですが、それこそ有名な秋田の民謡「おぼこ」だったことは後で知りました。

すると台所から奥さん達が出て来て、手のひらを翻しながら、のびのびと踊り始めたのです。歌は一段と活気が溢れ、ソロの歌い手に和して、相の手の囃しを「ハーオイサカ サッサアオバコデハイハイ」とみごとに返して行く、その様子には私は目を見張りました。

それは秋田民謡のなかでも一番有名な「おぼこ」(娘)だったのです。

私は本当に驚きました。祭りでも何でも無い日に、プロではない生活者たちが、ごく自然に歌い自然に踊り出して、どンドンと盛り上がりしていくその様子に目を見張りました。そして私は、何かがわかったのです。私が感動したロシア民謡を歌うロシア人たちの雰囲気と、この場面は全く同じではないかと。



写真・本人提供（現在ある二番目に若いときの写真）

野見山紘一さん追悼

文化の仲間・代表世話人 二村 柊子

10月になって早々の訃報。劇団員・野見山紘一さん（77歳）が亡くなりました。あのハイ・トーンでよく通る声の主が一夜で逝ってしまったとのことでした。

野見山さんは“工苑”の社長（現在は相談役だそうです）であり、そしてそこは、劇団員・中沢研郎さん（故人）、細田寿郎さん（故人）、宮川淳子さん、元劇団員・浜島政勝さん、佐藤孝志さんの労働の場であっただけではなく、彼らの劇団活動の支えの場であったことは言うまでもなかったはずで

野見山さんは先代譲りの美食家でした。ずーっと昔、ギリシア料理なるものを食べに連れて行ってもらったこと、浅間山のふもとの別荘で新年を祝ったこと、松本からの帰り、信州産の「馬刺し」を届けたこと——。

もう一回、食事を共にしたかったです。でも、野見山さんらしい幕の下ろし方だったんだと思うことにしています。

ご冥福をお祈りいたします。

2018年10月

劇団員（休団中）の野見山紘一さんは10月2日、脳梗塞により急逝されました。77歳でした。ご冥福をお祈り申し上げます。



◎文化の仲間通信◎

◆KAAT 神奈川芸術劇場プロデュース公演

セールスマンの死

日程 11月3日～18日(詳細問合せ)
会場 KAAT 神奈川芸術劇場(横浜市中区)
原作 アーサー・ミラー/演出 長塚圭史/出演 風間
杜夫・片平なぎさ・山内圭哉・菅原永二ほか
料金 S席8500円(65歳以上8000円) A席6000円
24歳以下3000円 高校生以下1000円
チケット チケットかながわ0570-015-415

◆映画 津軽のカマリ

日程 11月10日から
会場 渋谷ユーロスペース(03-3461-0211)
津軽三味線を広めた初代・高橋竹山。津軽のカマリ(に
おい)がわきでるような音を求めた高橋竹山の人生を描く。

◆前進座公演 いわさきちひろ生誕100年
ちひろ一私、絵と結婚するの

日程・会場 11月12日～14日 練馬文化センター小ホール
11月15日・16日 浅草公会堂
11月19日 きゅりあん大ホール(大井町)
11月21日 彩の国さいたま芸術劇場大ホール
12月8日 なかのZERO小ホール
12月14日 武蔵野市民文化会館大ホール

原案 松本猛/台本 朱海青/演出 鶴山仁
料金 A席7000円 B席5000円 ほか

問合せ・申込み 前進座0422-49-0300

◆劇団民藝公演 グレイクリスマス

日程 12月7日(金)～19日(水)(詳細問合せ)
会場 三越劇場
作 斎藤 憐/演出 丹野郁弓/出演 岡本健一・千葉茂
則・中地美佐子・本廣真吾・岩谷優志ほか
料金 一般6500円 夜チケット4500円[夜公演全席]
U25(25歳以下)4000円 高校生以下1000円
クリスマスを舞台に激動の5年間をこっけいに描く、
斎藤憐の代表作。民藝初演から四半世紀をへて、あらた
な陣容による新しい舞台化。

問合せ・申込み 劇団民藝 TEL044-987-7711(月～土
10時～18時)

◆東京芸術座公演 No.104 「Challeng・ed - 遠い水の記憶」

日程・会場
12月21日(金)野方区民ホール 19:00～
12月24日(月・休)練馬文化センター小ホール
14:00～

12月25日(火)野方区民ホール 14:00～
原作 神品正子/演出 印南真人/出演 崎田和子・鈴
木健一朗・脇秀平・松並俊祐ほか

料金 一般4000円 U30 2500円
障がい者割引2500円 団体(10名以上)3500円
200m平泳ぎでロンドンオリンピック出場を確実視され
ていた高橋は、代表選考を兼ねた日本選手権で三位にと
どまりオリンピック出場を逃す。競技者として思い悩ん
でいた時、盲学校の校長から「視覚障害を持つ子どもた
ちに水泳を教えて欲しい」と懇願される。

問合せ・申込み 東京芸術座 03-3997-4341
tg@tg-za.com

◆川崎太鼓仲間 響 25周年記念コンサート

祭り 心ひびかせて

日程 12月23日(日)15:00開演
会場 川崎市麻生市民館大ホール(小田急線新百合ヶ丘駅前)
第1部 心ひびかせて四半世紀(踊りにぎまつ・25周年
記念メドレー・二足歩行ほか)/第2部 いま伝えたい
日本の祭り(ゲスト 東京高円寺阿波おどり・江戸
歌舞伎連)/第3部 祭りばやしは響色(さんさ踊り・
金浦神楽・秩父屋台囃子ほか)

料金 指定席2000円 自由席 一般1500円
小・中・高・障がい者1000円

問合せ・申込み 080-1038-9089/
kayoko@abox23.so-net.ne.jp(吉田)

◆合唱団いちばん星 コンサート

日程 2019年1月14日(月・休)14:30開演
会場 川崎市エポックなかはら(南武線武蔵中原駅前)
第1部 沖縄を歌う(じんじん・ていんんさぐぬ花・芭
蕉布ほか)/第2部 みんなで歌おう/第3部 平和
のステージ(沖縄の願い・チビチリガマ・混声合唱組
曲「黙礼」より 祈る・生きる ほか)

指揮 山寺圭子/ピアノ 中山真理
料金 指定席1500円 自由席1200円
障がい者・小中高生300円

問合せ・申込み 090-9147-2829(吉田治夫)

◆70周年記念 日本のうたごえ祭典

日程 1月19日(土)
会場 川崎市とどろきアリーナ
Human Festa -いのちをうたおう 開演12:30
Peace Festa -こころをつなごう 開演16:00
料金 大人3000円 高校生以上2000円
中学生以下・障がい者1500円 通し券5000円

問合せ 03-3200-4977(祭典実行委員会)

◆日本のうたごえ70周年記念

全国和太鼓と民謡・民舞まつり
日程 1月20日(日)開演14:00
会場 調布市グリーンホール大ホール(京王線調布駅前)
ゲスト 民族歌舞団荒馬座・歌舞劇団田楽座・銚子正調
大漁節保存会ひびき連合会・金城吉春と東京エイサー
シンカ

第1部 お江戸のにぎわい、祭りだわっしょい(にぎわ
い江戸楽・合唱と和太鼓による田づくりの里・銚子の
太鼓・エイサーほか)/第2部 輝けいのち(生命の詩・
七夕祭り囃子・雀おどりほか)
料金 一般2500円 小中高校生・障がい者1500円
(全席自由)

問合せ・申込み 鈴木090-3507-9008 玉田080-2043-8175

訃報

文化の仲間の会員竹間テル子さんの夫で元文化の仲
間会員・元市会議員の竹間幸一さんが、病氣療養中の
ところ去る8月26日、逝去されました。71歳でした。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

■文化の仲間ギャラリー■

大谷 敏行⑦

「厳選」大谷敏行の川柳塾
ガン抱え辺野古抱えて不退転
九月二日 『赤旗日曜版』掲載
恐るべしエアコンという命綱
八月三〇日 『朝日新聞』掲載
赤い糸結ばれたのが運のつき
八月一六日 『日本海新聞』掲載
「道徳」を隗より始める文科省
タコツボに一石投じる蛮勇気
不条理な殉職という不慮の死よ